

棚田に吹く風

2017
春
Spring
季刊



2 特集

棚田の石積み

5 フォトエッセイ

棚田との語り

6 棚田・里山からのたより
大河ドラマ「おんな城主 直虎」で
盛り上がる久留女木の棚田
静岡県浜松市北区引佐町

8 棚ガール

ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

9 棚田博士は今日も行く
万年山北西麓、山浦川河岸の棚田
大分県玖珠町山浦杉河内

12 会員のひろば

14 かつどうノート
スタッフのつ・ぶ・や・き

15 Project Report

棚田の

石積み

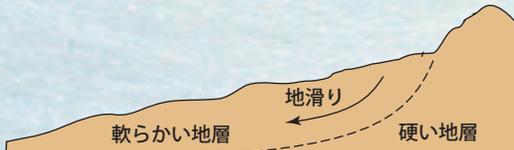
棚田の大きな魅力の一つは、田んぼと田んぼの間にある傾斜の装い。つまり法面のりめんのさまざまな形にあります。

西日本に多いとされる石積みの形は、地形や産出される石の種類、その土地に脈々と引き継がれる城壁などの伝統的な技術によって、さまざまな表情を見せてくれます。今号は、そんな石積みの魅力をお伝えします。

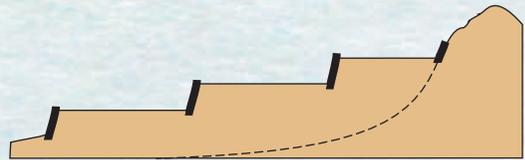
緩やかな曲線を描く土で固められたどこか女性的な土坡どはとは対照的に、直角な角度、堅牢で厚重的な石の組み合わせがどこか男性的な石積み棚田の世界をお楽しみ下さい。

棚田の成り立ち

棚田は主に山の斜面や地滑り跡地に築られました。現在では勾配 1/20以上を棚田と称しています。



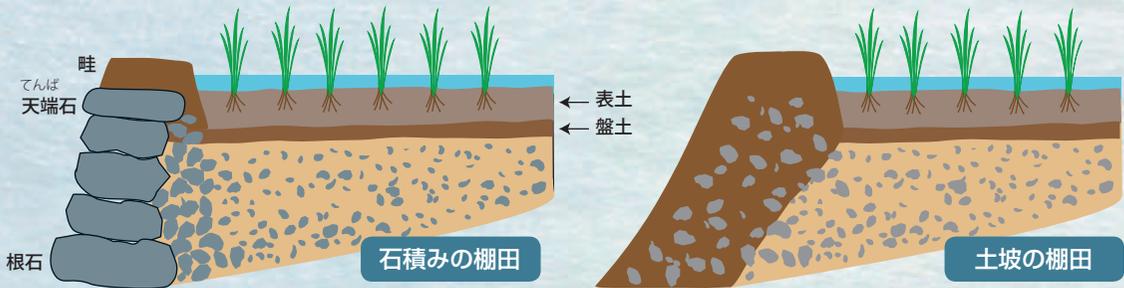
地滑り跡地は比較的なだらかで稲作地に適しています。



この図の勾配は 5/20。日本の棚田の平均的な斜度。

棚田の構造

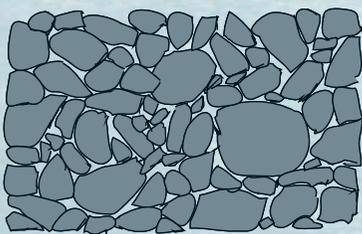
棚田の構造は大きく分けて、西日本に多い石積み型と東日本に多い土坡型どはに分類される。石積み型は耕地面積を広く取れることが特徴であるが高い石積み技術と石材が必要になる



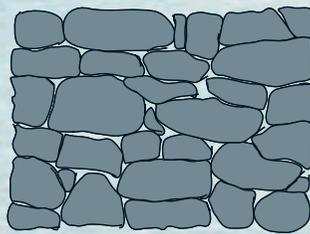
石積みの例

※参考文献:農業農村工学会論文集278号

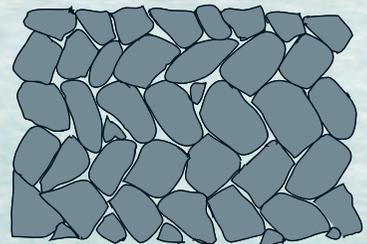
野面積みのづらは多くの棚田で見られる。自然の石を多く使用し目地の残るのが特徴。これ以外にも目地を無くした打込接や切込接などもある。



野面積み(乱積み的一种)



布積み



谷積み

棚田の石積み



1：島根県 大井谷、石積みの美しい棚田／2：佐賀県 岳棚田パーク／3：佐賀県 浜野浦／4：佐賀県 玄海町の棚田、最近の補修か？平盤石による石積み／5：高知県 神在居の棚田／6：徳島県 重松の棚田



1：地元のベテランが先生役
2：石垣のかさ上げほぼ終了
3：世界3大石垣の一つ

百年の石垣を積む

熊本県水俣市
愛林館 沢畑亨

ハンマーで石を軽く叩いて動かす。コツコツコツ。「はい、決まった。次はこけ（ここに）ちっと（少し）長かつば（長いのを）」。

石垣積みは、一度やったらやめられない。石と土という、無限の寿命を持つ素材を積み上げるだけで、棚田の水と泥という膨大な重さを支える壁ができてしまう。上手に作れば百年は保つ。そんなに長持ちするモノづくりは、なかなかできない。

愛林館の石垣積み教室は2001年2月に始まった。予てからやってみたくと思っていたが、吉井和久さんの棚田の石垣が崩れ、地元の人を講師にしてやってみないか、という提案で始まった。開催前には福岡県黒木町の山村塾の石垣積み教室に参加して、やり方を盗んだ。参加者は全国から集まり、八代で戦国時代の城跡を発掘している人が勉強のために来たりして、予想を超える多様性があった。

以来、棚田の石垣、林道法面の石垣など、あちこちで積んできた。最近は毎年開催ではなくなっているが、今年久しぶりの開催となった。教室で簡単に技術の伝承ができるとは思わないが、ある程度の素養のある人にはさほどの問題ではなさそうだ。今後もぜひ続けていきたい。私？ まだ自分では積めないな。。。作業の流れは理解したから、助手は完璧に務まるけど。

棚田の石積み



1:高知県 仁淀川の棚田、日本のマチュピチと称される垂直の石積み／2:愛媛県 泉谷の棚田、急峻な棚田を支える石積み／3:静岡県 石部棚田、作業用の踏み石のある石積み／4:島根県 都川の棚田



岐阜県恵那市の中野方地区は、棚田と生活と里山が一体となった景観が特徴である。坂折棚田のほぼ中央に赤河断層があり、その影響で直径50センチ〜5センチの自然石がたくさん出土する。整形せずそのまま使った積み上げ、棚田となった。崩壊するたびに田直しを繰り返してきた結果、今日の坂折棚田が誕生した。比較的手頃な石が多く、曲線の石積みもあることから、繊細でやさしい女性的な石積みとなっている。

江戸末期には屋敷の石積みや「黒鉄衆」が積んだという記録がある。黒鉄衆は、謂わば流れの土木職人集団で、石積みの技術を伝授したことから坂折集落には数人の石積み職人が誕生し、他地域にも出かけて活躍した。

石積みは年数を経過するとやがて崩壊する。近年は農業機械による作業のため、踏圧が大きく石積みの崩壊が早くなっている。毎年、稲刈りが終わった後の11月ごろに石積塾を開催し、石積の技術伝承と崩壊寸前の石積み補修を同時に行い、保全に努めている。

(NPO法人恵那市坂折棚田保存会)

石積みの職人集団「黒鉄衆」
今もその技術を伝承し、保全に務める

岐阜県恵那市
坂折棚田

1:高さ3mほどの石積み／2:石積みと土坡の併用／3:石積教室の様子



車田植え棚田 新潟県佐渡市北鶴島

棚田との 語り



棚田の歴史は数千年におよぶというが、その間、先祖たちは幾世代にもわたって、一畝ひとくわ掘り起こした汗の結晶が棚田であると思う。

その棚田を前にしていると、先祖たちの生活ぶりが見えるような気になる。

日の出前の早朝から家族一同は鋤を担いで山へ出掛け、斜面を平らにする作業に取り組んだに違いない。作業は陽が暮れるまで続いたであろう。

さらには谷間の流れを導き、米が収穫できるまでの作業は計り知れない努力が必要であっただろう。そんな棚田と対峙していると、先祖たちの語りが増えてくるような気になる。

そして、私はカメラを取り出しシャッターを押すのである。

写真・文 永田博義



可憐な花咲く
(水仙)

永田 博義 ながた ひろよし

- 1938年 長崎県佐世保市生まれ・千葉県松戸市在住
- 1976年 写真家前田真三先生に邂逅、指導を受ける
- 1984年 写真集「本土寺の四季」出版
- 1997年 写真集「偕楽園逍遙」出版
- 2005年 ポストカード「遺産 日本の棚田Ⅰ」作製
- 2005年 ポストカード「遺産 日本の棚田Ⅱ」作製

棚田・里山
からの
たより



大河ドラマ「おんな城主直虎」で 盛り上がる久留女木の棚田

久留女木の棚田は
井伊家の隠し里だった？

久留女木の棚田は、静岡県浜松市北区引佐町の東久留女木と西久留女木にまたがる、観音山の南西斜面（標高250メートル付近）に展開しています。総面積は約7.7畝、その中に800枚の田んぼがあるといわれ、その美しい景観は「日本の棚田百選」や「静岡県景観賞」にも選ばれています。

棚田の起源は平安時代といわれていますが、戦国時代、井伊直虎の祖父（直宗）と曾祖父（直平）の時代に、井伊家の庇護を得て開墾が進んだと考えられています。平成29年1月からNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」が放送されていますが、まさにその時代です。

長く当地に住んだ井伊直宗の奥方・浄心院の共侍として入植した中井七衛門という家臣の末裔が、今でも棚田を守り続けているという、正



3

1: 久留女木の棚田 夏 / 2: 春の夕景 / 3: 雪の棚田

静岡県浜松市北区引佐町

真正銘井伊家ゆかりの棚田です。

平成28年10月には、大河ドラマの第7話の撮影が久留女木の棚田で行われ、主役級の役者さんが大勢訪れました。

ドラマの中で、今川氏との戦の中で窮地に陥った井伊家の人々が隠れ住んだ「隠し里」という設定で登場しましたが、まさに、そのものズバリ。久留女木の棚田は、戦国時代の井伊家の食糧庫であり、後方支援の基地だったのではないかと考えられています。

童宮小僧の伝説が息づく棚田

大河ドラマ「おんな城主直虎」の中で、主人公の生き様と重なる重要なファクターとして「童宮小僧」が登場しますが、その童宮小僧伝説の発祥の地も久留女木の棚田です。昔むかし、久留女木川には童宮に通じるといわれる深い淵があって、そこからたびたび子どもが出てきて、困っている村人を助けてくれたそ

うです。

いつも手伝ってくれるのですが、どこから来たのか尋ねても、笑うばかりで名乗りません。村人は、この不思議な小僧を、竜宮に通じる淵から来る「竜宮小僧」と呼んで可愛がり、小僧も村人と、とても仲良くになりました。

「おい、小僧さん。お礼にご馳走したいが、何が好きかな？」と聞く。「何でもいいが、蓼汁れいじゆだけは食わせないでください」と、ひどく蓼汁を嫌っていました。

ところがある日のこと。村人が誤って蓼汁を出してしまい、それを飲んだ竜宮小僧は死んでしまいました。死ぬ間際に「久留女木の中茂にある榎木の下に葬ってほしい」といい残したため、村人は泣く泣く言われた通り、木の下に竜宮小僧を葬りました。

するとその木の根元からこんこんと水が湧き出し、村人はその水を利用して、たくさんの田んぼを作りました。それがこの久留女木の棚田だということです。

自らは名乗ることなく、困っている人には誰にでも手を差し伸べ、見

返りを求めず、死んでもなお棚田の水源となり田を潤してくれる竜宮小僧に、村人は感謝の気持ちを込め、供物をして手を合わせています。

竜宮小僧の精神で 棚田の再生に取り組む

久留女木の棚田も近年、過疎化や高齢化が進み、半分以上が休耕地になり、耕作している地元農家も8軒まで減ってしまいました。

しかし、逆に「田んぼを貸してほしい」という外部の人が現れるようになったため、地元農家と外部との橋渡し役、調整役として、平成27年に「久留女木竜宮小僧の会」が発足

しました。

竜宮小僧の会は、年間を通した稲作を学び将来の耕作者を育成する「棚田塾」と、田植えや稲刈りなどを体験できる「稲作体験会」を開くほか、久留女木の棚田の魅力や現状を知ってもらうための「お話し会」などを開いています。

主役は久留女木の棚田であり、主人公は耕作者。塾生や体験会の参加者は、あくまでも「竜宮小僧」であるというスタンスで活動を続けています。

(久留女木竜宮小僧の会)

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 天竜浜名湖鉄道「フルーツパーク」または「金指」駅よりタクシー利用、約30分

【自動車】 新東名高速「浜松いなさIC」で下車し、国道257号、県道47号、県道359号、県道299号線経由にて旧久留女木小学校をめざす。ここに車を止め、棚田まで徒歩8分。ICより小学校まで約15分。「浜松北いなさIC」はハーフICにつき注意が必要

■ お問い合わせ

静岡県交通基盤部農地局農地保全課
Tel.054-221-2714
E-mail : nouchihozen@pref.shizuoka.lg.jp
久留女木竜宮小僧の会
E-mail : ryugukozou@gmail.com



秋の風景

棚 ガール Tana Girl!

Vol.8

棚田の虜になった乙女、通称「棚ガール」

そんな女性を紹介する「コーナー」です!!

新潟県十日町市

西川美里(23歳)
大平理恵(23歳)

FC越後妻有(えちごつまり)は「県外から移住してきたサッカー女子が、中山間地で担い手のいなくなった棚田を引き受け、保全活動をし、米作りをしている」農業女子サッカー実業団チームです。日本でも類を見ないこの取り組みは、日本有数の豪雪地帯の新潟県十日町市・津南町で2000年から3年に一度開催されている「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」から産声をあげました。都市と地域の交歓というコンセプトのもと、監督とトレーナー、そして昨年度よりフレッシュな選手が2名活躍しています。

一人目は兵庫県出身の西川美里。初めての里山暮らし、初めての農作業に当初は戸惑いがあったものの、今ではすっかり地域の皆さんと仲良くなり、一緒にゲートボールをプレーするまでになりました(笑)。

二人目は青森県出身の大平理恵。大学で専攻していた農業を営みながら、今まで続けていたサッカーもできる環境ということで移住を決めました。

昨年は初めての育苗から稲刈り。山の中の田んぼで、泥んこになりながら、大事に育てたお米の味はととても感慨深いものでした。まさに「新米(農家)が作った新米」は忘れられない味わいでした!



農作業を通じ、地域の方々に温かく迎え入れてもらい、励まされ、支えられています。いつの日か今度はサッカーで地域を元気にし、笑顔いっぱいになるように、これからも日々精進していこうと思います。FC越後妻有の応援を、どうぞよろしくお願いいたします!(FC越後妻有)

左から、西川美里、大平理恵とサッカーチーム監督の江副良治



第十一回は大分県別府市にある「内成棚田」を紹介するわ!



別府市の南端に位置している内成棚田は、山の斜面に1000枚以上の棚田があって、「千枚田」と呼ばれているわ!歴史もとても古くて、なんと、鎌倉時代の古文書にも存在が記載されているそうよ。すごいわね!



別府といえば温泉!「内成棚田」の近場にももちろん温泉があるわ!作業帰りに疲れを取るのもいいわね。

約100㎡の田んぼを借りられるオーナー価格は年間25,000円。収穫時には玄米約30kgが頂けるわ!作業はコース制を取っていて、田植え、草取り、稲刈り、収穫祭など通年を通して参加する作業を選ぶことができるの!



応募資格や最新の情報は、内成棚田のFacebookを見てみようだね!
www.facebook.com/uchinaritanada

ヨネちゃんのお



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

第十一回

こちらもチェックしてみてネ! /

棚田オーナー募集地域紹介サイト 棚田百貨堂 検索

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

万年山北西麓、山浦川河岸の棚田

大分県玖珠町山浦杉河内



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

大分県玖珠町は県の中央部に位置し、その西端に山浦杉河内がある。拙著『続百選の棚田を歩く』で紹介した山浦早水に隣接する集落。集落へのアクセスは『棚田に吹く風』2011年11月号の特集、「駅から歩ける棚田」で紹介された山浦早水よりJRの駅に近い。九州を横断し大分と久留米を結ぶ久大本線の杉河内駅を降り、国道210号を東へ。すぐに慈恩の滝入口の交差点があり、右折、県道704号の坂を上れば徒歩15分ほどで到着する。

一部に土坡も混在 高い石積みは4メートル

2016年11月下旬、杉河内を訪ねた。第21回全国棚田サミットが開かれた佐賀県玄海町で会った早杉宮農組合の代表渡辺公明さんの招

きに応じたものである。

県道の坂は、玖珠川左岸に発達する河岸段丘の段丘崖であり、玖珠川の支流山浦川が段丘崖を駆け下り慈恩の滝になっている。段丘上には山浦川の狭い谷底平野が形成され、川の両岸に杉河内の集落が展開。左岸の36戸が日田市、右岸の22戸は玖珠町に属している。右岸の杉河内は低い丘陵で百選の棚田がある山浦早水と隔てられているが、早杉地区とよばれるほど、宮農活動上の結び付きは強い。

棚田は、山浦川の左岸側から見ると全体を俯瞰できる。谷底平野を南北に限る谷壁、傾斜7分の1の斜面にひらかれており、集落周辺と集落南部の2つに大別される。

集落周辺の棚田は、集落のなかを通る道路によって上下段に二分さ

れる。上段はさらに2つのブロックに細分される。北側は1〜3段の狭い棚田が10段ほど、一部石積みもみられるが大部分が2段前後の土坡で築かれている。南側は横に長く、9〜10段、面積はやや広く3〜4段、高さ2〜4段の整然とした感じをうける石積みみの棚田である。

下段は上段に比べ傾斜が緩やかで、3年前に廃校になった杉河内小学校をはさみ南・東・北にわかれる。北は上段同様、高さ1段前後の土坡の棚田が5段、一枚が2〜3段の大きさ。東は一枚が5〜10段で比較的大きく、2列3段になり、高さが2段前後の石積みで築かれて

いる。南は杉河内で水田が最も広い部分、棚田の配列も複雑で5つほどのグループに分かれ30枚ほどの塊になっている。1枚の大きさも1〜10㍓とさまざまで、石積みの高さも0・5〜3㍓とまちまち。渡辺さんの3枚、27㍓の棚田もここにあり、小学校建設の際の代替地として造成されたもので、軽トラ100台分の土が運びこまれたそうだ。

集落南部の棚田は石積みが高く、景観的には最も注目される。傾斜は3分の1に近い急斜地、15段以上の階段、一枚が2〜8㍓、最も高い石積みは4㍓以上。最上段の棚田では渡辺美代志さん58歳が枝葉で覆い野積みしておいた椎茸の原木を取り入れていた。原木はコマウチした後、菌を全体に行きわたらせるた

め1年半の期間屋外でさらす必要があるそうだ。ここに3枚27㍓の棚田を所有するという。1枚8㍓近くになるので広い棚田を得るために高い石積みになったものと考えられる。その棚田からは小学校とそれを取り囲む集落全体を見渡せ、北の山嶺に並ぶ11基の巨大な発電用風車も目に収めることができる。

キーパーソンは複合経営の 専業農家

守り人は渡辺公明さん74歳、小学校の同級生だった奥さんと二人暮らし。3人の子供はそれぞれに独立、北九州市、大分市、日田市で所帯を持っているという。渡辺姓の多い集落のなかで常用される門名（屋号のこと）は中園と呼ばれる。交替

で務める区長を数回務め、そのほか杉河内団地組合組合長、早杉宮農組合代表、玖珠地区遺族会会長、農業共済玖珠地区代表、農業委員会OB会長、満願寺役員総代など、集落のキーパーソンであるとともに集落をこえた玖珠地区の重鎮でもある。

3歳の時、父親がフィリピンのミランダ島で戦死、母子家庭という厳しい環境のなかで育った。中学・農業高校の学生時代から母親を助けて農作業に従事、高校卒業と同時に就農、酪農家を目指した。しかし、当時は道路事情が悪く、集荷がスムーズに行われず、10年近く頑張ったが断念。27歳の時に日田市農協職員に転身、60歳の定年まで指導員として勤務した。この間所有する水田と畑を耕作し、山林を管理する兼業

農家でもあった。定年後は、棚田60㍓、畑15㍓、畑としての転作田15㍓を耕作、山林13㍓、半分以上がスギ林、残りがクヌギ、それを活用した椎茸栽培を行う複合経営の専業農家である。

所有する機械類は、200万円で購入した新品の16馬力トラクター、歩行型2条田植機、バインダー、ハーベスター、椎茸乾燥機、管理機3台であるが、早杉宮農組合が所有する乗用型4条田植機も使用する。機械を共同利用するために組合を設立したが、利用者が少ないことを問題にされていた。

バインダーで収穫した米はハサ掛けにした天日乾燥米として、農協には出荷していない。85袋（30㍓袋）すべてを縁故者、大阪の親類、別府在住の姉の友人たち、日田在住の奥さんの兄弟、「旅ごころ」の取材で訪れた福岡の民放局のスタッフなどに、1袋8千円で販売、約70万円の収入を得ている。椎茸はホダ木700〜800本に植菌、収穫されたものは仲買人に販売、約100万円の収入になるといふ。

現在複合経営の柱になっているのが、道の駅への出荷。畑や転作田で



1：山浦川右岸の棚田と集落／2：高い石積み
の田／3：土坡の田(手前)もある／4：棚田の架け干し米

栽培する野菜類やニンニク・椎茸などを、国道210号沿いの玖珠市街地にある「童話の里」と、今年7月20日にオープンしたばかりの「慈恩の滝くす」の2店舗に出荷している。

渡辺さんの8月分の出荷実績は「童話の里」が6万2260円、「慈恩の滝くす」が16万3500円だった。訪ねた日の11月29日分をみてみると、前者ではしいたけ(1)200円、後者ではしいたけ(3)1340円、生しいたけ(16)3680円、にんにく(1)1300円、米2⁺袋(3)3300円、さつまいも(1)2300円、白菜(1)2500円、大根(2)1000円、合計9030円。両者とも出荷人のバーコードが同じで都合がよく、また売上はその日のうちに携帯電話で報告され、3日後には現金が振り込まれるという手際よさ。年間200万円にはなるだろうとのこと、まさに経営の大黒柱といえる。当日の売り上げにはなかったが、もう一つ自慢の商品が黒ニンニク。作り方は簡単で、ニンニクを炊飯器に入れ、2週間保温状態にしておけば黒ニンニクになるといふ。

「慈恩の滝くす」の方をのぞいて

集落の将来は明るいが・・・

みた。火曜日だったが結構店は賑わっていて、最近では外国人の観光客も多いという。当日も、韓国からの観光客を乗せた大型バスが駐車場に停まっていた。ガイドさんに聞いてみるとソウルからの客、前日別府で宿泊、今日は福岡に宿泊する2泊3日のツアーだそう。

集落のことを訊ねてみた。早杉宮農組合を構成する山浦早水と山浦杉河内を合わせた戸数は40戸。そのうち農家が25戸、10戸が複合経営の専業農家、15戸が兼業農家とのこと。専業農家が比較的多いのは、主としてクヌギの広葉樹からなる里山を持ち、椎茸栽培が可能なためと



野菜は道の駅へも出荷

山浦杉河内棚田へのアクセス



【公共交通】 久大本線の杉河内駅前より徒歩にて国道210号を經由して県道704号線へのぼる。駅前から杉河内小学校まで1.5km、約25分

【自動車】 大分自動車道「玖珠IC」よりJR杉河内駅を目指す。国道210号線の駅手前の信号を左折し県道704号線に入る。ICより杉河内小学校まで約13km、20分

考えられる。驚いたのは、そのうちの10戸に後継者が同居しているという。しかも8戸は後継者が農業にも従事しており、明るい将来が展望できる条件を備えている。しかし、明るい雰囲気がないのは、このうち49歳以上の9人が無気力な独身者ということだ。ことに58歳の4人は小学校以来の同級生で集落の中核となるべき存在。渡辺さんは、とくに4年生大学を出た一人を次のリーダーとして育てることに腐心、ことあるごとに表に出そうとするのだが、なかなか出てこないと嘆か



守り人・渡辺公明さん

れる。農山村で過疎化が進んだ頃、嫁不足が問題になったことがあるが、今もその後遺症のあることを認識させられた。

学生たちと地域をつなぐ活動

神奈川県横浜市 木戸 幸子

私は、棚田ネットワーク発足当初から会員として楽しく活動に参加し今に至っています。

棚田の活動から離れた私の個人的な活動の主なものは、生まれ育った旧松代町(現十日町市松代)と早稲田大学との交流です。

きっかけは約40年前、夫が早大のOBということから旧松代町に早大のセミナーハウスが誕生したことです。この長い間には大学側、松代町側の温かい協力のもと、みなさんと知恵を出し合い、相互に役立つものは何かと考えながら、数えきれない程の学生さんとの交流をしてきました。とかく一方通行になりがちな交流をなくそうと、20周年を機に松代小学校5年生全員(20~30人)が、早大理工学部で毎夏開催される理科実験教室に参加させてもらっています。東京の同学年生(個人参加)と一緒に、テーマ毎に分かれて指導を受けています。実験後は大学構内を見学し、以来松代の子供たちは全員早大を体験していることとなります。

早大生の松代での活動としては、大学公認のボランティアサークル「まつだい早稲田じよんのびクラブ」が活動の主体となっています。豪雪期の雪掘りに始まり、高齢者宅訪問、お祭りの復活、農作業と、年間を通して活動しています。

また、30周年記念事業として「早稲田松代塾」を立ち上げました。今年で9年目に入るこの塾は、一般市民を対象に年間1テーマの講座で、年6回、早大の先生方に講義していただい



います。「近代日本の理想と文化」に始まり、歴史、国際問題、世界の憲法、多元文化論等と続き、今年度は「東洋思想」がテーマです。十日町市民の他、新潟県下、東京・横浜からも参加があり、100名程の受講生になっています。

加えて、5年前から「早稲田松代塾」のジュニア版を立ち上げました。夏休みの10日間、松代の小学5、6年生と中学生の勉強を早大生にみてもらう学習塾です。早大生は延べ30数名が参加、松代高校生もサポートに入り、子供たちを指導してもらっています。都会暮らしの学生にとっては、子供たちや地域の人たちとの交流はかけがえのない時間であり、自分を見つめる機会にもなっているようです。

学生たちは、1~2年で次の代になり、また1からのスタートという回転の速さです。一つのプロジェクトを長い視点で捉えるという余裕がないことから、じよんのびクラブのOB会「まつだいじよんのび稲門会」を立ち上げ、卒業後も活動に参加して、現役生との情報交換を密にしています。学習塾の子供たちも近い将来、優しく接してくれた早大生と一緒に地域の未来を語り合う姿が予感でき、私も、まだまだ頑張らなければと思っています。

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風」会員のひろば」宛 メールでも受け付けています。↓ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの Best Shot!

会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎月、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp



棚田でキャンプ 千葉県我孫子市 大久保 芳洋

棚田に思う

ルワンダから帰国して

昨年8月、3年間のルワンダ勤務を終え帰国しました。ルワンダは、アフリカ中央部に位置する小さな国。四国の約1・5倍の面積で、人口は1165万人。私はJICAの灌漑アドバイザーとして、この国の灌漑プロジェクトの立ち上げ等に携わりました。ルワンダといえば、1994年の「ルワンダ虐殺」の負のイメージで捉えられることが多いのですが、23年の時を経て、アフリカでも有数の安全な国になっています。気候も過ごしやすく、人々は勤勉です。未来のあるこの国の国造りをサポートできたのは得難い経験となりました。

この国でも、「耕して天に至る」日本の棚田のような風景を見ることができません。写真は世界銀行のプロジェクトが進む段々畑ですが、国民の8割を占める農民の勤勉な気質をあらわしています。この他にも野生のゴリラ、ルワンダコーヒーほか魅力満載の国です。機会があれば、ぜひ一度、ルワンダを訪れてください。

(農林水産省農村振興局整備部
地域整備課 田中卓二)



会員さんから寄せられた棚田の雑記。「棚田に思うこと」を語ってまいります。

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



著者：
リチャード・ランガム
(翻訳:依田 卓巳)
2,592円
NTT出版
2010年3月



火の賜物〜ヒトは料理で進化した

人類の進化はいまだに謎が多く、様々な説が乱立している状況ではあるが、概ね道具を使って集団で狩りをし、多くの肉を食べられるようになって進化したとされる説が多い。しかし、これはあまりにも「男のロマン」的すぎやしないか。本書は、火を得て、その火で行った「料理」こそが、人類進化の要だったと論ずる。いわば女性の日々の生業が人類を進化させたというわけだ。確かに、女性が日々の採集物を調理し安定的なエネルギーを確保するからこそ、男は安心して狩りに行けるようになったのかもしれない。



著者：飯盛義徳
2160円
学芸出版社
2015年4月

地域づくりのプラットフォーム 〜つながりをつくり、創発をうむ仕組みづくり〜

本書では人々が相集い、相互作用によって予期しない活動や価値を生み出していくことを「社会的創発」、それを作り出すコミュニケーション基盤を「プラットフォーム」と呼び、人々が資源を持ち寄り、自発性に基き行動していくような存在と考察している。強いコアと弱いつながりを兼ね備えた「プラットフォーム」を地域でのプロジェクトの中に見出し、課題解決を行う具体的な活動のポイントを分析。取り上げられるプロジェクトは多岐にわたり、地域づくりを志す人の参考にもなる一冊。



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

中島代表が基調講演
～福島県農都交流セミナー～

2017年2月2日 報告 事務局

2月2日、福島県郡山市で「福島県農都交流セミナー」が開かれ、県内の市町村職員やNPO法人担当者、地域おこし協力隊員など約60人が参加しました。当会の中島代表が「企業との連携による農山村の活性化について」と題して講演し、その後、企業連携モデル事業が実施されている4つの地区から報告がありました。

棚田をはじめ地域の資源を活用することで新たな価値が生まれること、ただし継続するためには事業化が必要なこと、地域の実情に合わせてさらなる検討が必要であることなど、課題も見え、有意義なセミナーになりました。



子ども環境学習イベントに
出展しました

2017年1月28日 報告 小川 順子

第16回まちの先生見本市の会場は落合第三小学校でした。新宿区の西端の閑静な住宅街にあり、学童数546人、新宿区内では大人数の小学校です。校内には落合柿という名の大きな柿の木があるそうです。

今回は「棚田へおいでよ」というタイトルで参加しました。昨年と同様に「こきはし」を使用した脱穀体験、紙芝居、棚田の生き物紹介をしました。参加した子供達は、こきはしで勢い良く脱穀した粕を一粒一粒丁寧に拾って、大切に持ち帰って行きました。



2017年4月、『全国棚田ガイド(仮)』の編集作業、真っ最中。きっかけは会報の特集ページのネタ探しだった。毎回、「どんな特集にしようか」で頭を悩ます。採り上げたいテーマはいろいろあるものの、「季節感がちよつと合わない」とか、活動の繁忙期と重なりそうな時は「材料集めが大変そう」で先送りされる。ずっと先送りされているテーマの一つが『島棚田』。このテーマが出たときに、島オタク?のHさんが見せてくれたのが『Shinagas』という、日本全国の島のデータを集めたデータブックだ。「へえ、こんな本があるんだ」「いつか、taratas も作りたいわ」。話は一旦そこで終わる。でも、胸の奥に小さな灯がともった。

それが形になる日が来た。名目は、会の「20周年記念事業」。20年も活動していること、それなりにデータは溜まる。棚田は生き物だから20年前と違っていることも、20年後にはどうなっているかわからないという点も、「この辺で一度集大成を」という思いに繋がった。

幾つかの出版社にあたり、断られ、それでも諦めなかった。「ここがダメなら自費出版でも」という最後に、家の光協会が企画に乗ってくれた。

全国の自治体や保存会に問い合わせ、情報を寄せてもらう。「掲載写真に個人の顔が載っても大丈夫ですか」「その人は保存会の会長さんです。うちの棚田の魅力の半分は、会長の人柄です!」。棚田に建っている施設の情報が無いのは何故?」「経営形態が変わって、不定期営業なので」「じゃあ、〈要予約〉で載せましょう!」。今はほとんど耕作されていません!」「そうですね。それでは、残念ですが掲載見合わせの方向で」というのもあった。

8月末に家の光協会から発行予定。A5版フルカラー、320ページ。皆さん、発行されたら是非この本を買って、棚田に行ってください。耕し続け、守り続けている、まもりびとたちを応援してください!



今回のつぶやき人
事務局
畦野花世

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

棚田でのお米づくり 体験プログラム



お米づくり体験プログラムも3年目を迎えます。昨年は台風の影響等もあり、稲が倒れて収穫が遅れるなど自然を相手にする難しさを泥まみれになりながら稲刈りをし実感しました。でも、自分で農作業したお米はやっぱり美味しいと感じた人も多かったようです。

今年も、5月3日（日）の田植え体験、8月27日（日）の稲刈り体験を中心に、地元川代集落のご協力を得ながら取り組みます。あなたも、自分で植えたお米を食べてみませんか。川代の棚田オーナーさんと一緒ですので、にぎやかなイベントになりそうです。

また、川代集落では、棚田や長狭平野の眺望を楽しめるようにと展望遊歩道を作ろうと張り切っています。場合によっては、田植えの後、間伐などのお手伝いをしたいと思います。

都心からわずか2時間という棚田での体験プログラムですので、多くの方の参加をお待ちしています。
(杉山 行男・上久保 郁夫)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

「かえるの卵を探そう！」



「雀始めて巣くう」。春の水溜まりに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第10回かえるの卵を探そう！」が3月20日（月祝）に開催されました。記念すべき第10回の参加者は7名。例年通り子供に棚田の自然環境を見せたいといった目的の参加が多かったのですが、今回は三重からの参加者もいました。

坂折棚田やヤマアカガエルの説明の後、早速、調査を開始しました。棚田ビオトープには鳥が踏み荒らすとヤマアカガエルが卵を産まないということで保存会の方が鳥避けテープを張っていました。天候には恵まれ坂折棚田を調査（散策）しましたが、今年は卵塊が見つかりませんでした。10年目にして始めてです。卵は「暖かい雨が降った次の日」に産むとされており、今年はその日がなかったためです。その後、追調査をおこない、結果、今年は5ヶ所79卵塊となりました。

今年の田植えは5月31日（水）です。ご参加お待ちしております！

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

今年もお米づくりスタートしました！



今年6年目の「昔ながらのお米づくり体験」がスタートしました。2月中旬にスタッフで田起こしをした8枚の田んぼで、3月18日、19日に第1回目「畦切り&藁口作り」を開催。12名が参加しました。昨年田んぼに水がたまりにくく難儀した経験から、今年の畦の基礎づくりは入念に行い、用意されたマサ（粘土質の土）をほとんど使い切るくらいに、畦の穴を埋めていきました。

二日目は藁口作り。熟練の常連さんが初めて参加するメンバーに丁寧に指導してくれて、無事立派な8つの藁口が完成。あとは水が入るのを待つばかり。伊豆の春らしい穏やかなほかほか陽気。生まれたばかりのヤギの赤ちゃんも元気に飛び跳ねていました！

さて次回は5月3日、4日の「畦付け&畦塗り」、5月20日、21日の「田植え」とイベントが続きます。ぜひご参加下さい！

(高桑 智雄)



平成29年9月28日(木)～29日(金)

「第23回 全国棚田(千枚田)サミット」が、長崎県波佐見町で開催されます。

問い合わせ: 第23回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会事務局 0956-85-2980(波佐見町役場 農林課内)



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になろう!

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

年会費

- 個人会員
- 維持会員 1口1万円(1口以上)
- 一般会員 4,000円
- 応援会員 3,000円
- 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

- 法人会員(賛助会員)
- 1口3万円(1口以上)

編集部から
細川護熙さんといえば、元内閣総理大臣であり、現在、陶芸や絵画などの芸術活動で活躍している方。その細川さんが描いた2m×1mの大きさの和紙60枚によって構成される高さ8・5メートルの巨大な壁画が、6月1日～4日に青山スパイラルガーデンにて公開されます。テーマはなんと「棚田の四季」!

実は当団体の法人会員である「日本の心研究所」(「やよい軒」などの和食チェーンを展開する㈱プレナスの文化事業団体)の企画で、日本の食文化を象徴する絵を細川さんに依頼したところ、ぜひ「棚田の四季」を描きたいとなったそう。棚田業界にとってもヒックニュース。当団体も後援していますので、ぜひご来場を!

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト
リニューアルしました!



<http://www.tanada.or.jp>

棚田に吹く風

2017年 春号 Vol.104

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565